

第 1189 回放送分『ACP』2 回目

ゲスト：大瀬克広ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「ACP アドバンス・ケア・プランニング」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 大瀬克広（おおせ かつひろ）ドクターです。大瀬さん、よろしくお願いいたします。

大瀬克広 Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

アドバンス・ケア・プランニング、その頭文字をとって ACP ですが、先週は、自分が受けた医療について、家族や医療者と話し合っておくことが大切というお話でした。

現在元気な方であっても、予期せぬ突然の病気や事故などは、年齢関係なく誰にでも起こることなので、自分の想いを託せる人は誰なのかを考えてみましょうということでした。

大瀬克広 Dr.

そうですね。特に高齢で一人暮らしの方は、「誰に自分の想いを託すのか」ということをしっかり考えていただきたいと思います。

高齢で意識のない一人暮らしの方が救急車で運ばれてくると、どのような医療を受けたいのかが分かりません。

二見いすず

特に鹿児島県は一人暮らしの高齢者の割合が多いですね。

大瀬克広 Dr.

そうなんです。高齢単身世帯の割合は全国 2 位です。

ご家族がいらっしゃっても、お子さんが県外に住まっていたりすると、普段の生活を把握できていません。

医療の決定という大きな問題だけではなく、入院中の着替えはどこにあるのか？などもお分かりにならないと思います。

二見いすず

そうですね。県外ではなく同じ県内であっても、同居していなければ、自分の親が「どこに何をしまっているのか」をきちんと把握できていないことが多いかもしれません。

大瀬克広Dr.

一人暮らしの方は、近くに住む身近な方にも

「万一倒れてしまったら」ということを想定して、

「どんな医療を受けたいのか」「身の回りの大切なものはどこか」などをお伝えしておくことをおすすめします。

二見いすず

自分の想いや大切なものを託せる人を身近で探しておくことはとても重要ですね。

大瀬克広Dr.

はい。ただし、誰かに伝えておくことだけで終わってはいけません。

万一、一人暮らしの方が自宅で倒れたときのために、おすすめしたいことがあります。

二見いすず

どんなことでしょうか？

大瀬克広Dr.

かけつけた救急隊が分かるように、

玄関などに「〇〇さんに連絡してください」と書いておくといいかと思います。

二見いすず

確かにそれだと安心ですね。

大瀬克広Dr.

そういった準備をしておくのは自分のためではもちろんあるのですが、離れて暮らす家族のためにもなります。

二見いすず

よくわかりました。

今月は「ACP アドバンス・ケア・プランニング」についてお送りしています。

お話は鹿児島県医師会の大瀬克広ドクターでした。

大瀬さん、ありがとうございました。

大瀬克広Dr.

ありがとうございました。